



〒530-0041 大阪市北区天神橋 2-2-9

プラネット南森町ビル 8 階

電話 06-6352-3400 FAX 06-6352-3401

メール saposen-osaka@lemon.plala.or.jp

ホーム <http://www.saposen-osaka.org>

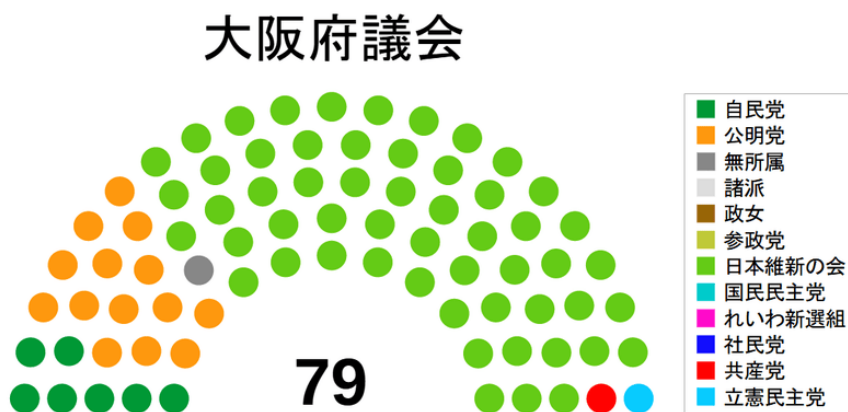
編集・発行/ NPO 労働と人権サポートセンター・大阪



「統一地方選挙 23・前半戦」—大阪 “維新圧勝” について考える

“維新圧勝”となった大阪の統一地方選挙。地域政党「大阪維新の会」の集票力の現状はどのようなものか。以下検証する。

大阪府議会、大阪市議会の選挙結果



大阪府議会と大阪市議会の選挙結果は以下のとおりである。

大阪府議会における維新の議席占有率は選挙前には 52%（88 議席中 46 議席）、選挙後には 70%（79 議席中 55 議席）となっている。また、大

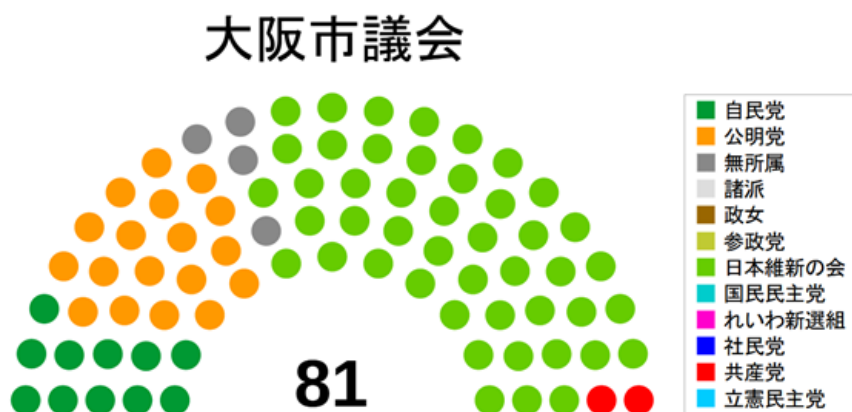
阪市議会における維新の議席占有率は選挙前には 48%（83 議席中 40 議席）、選挙後は 57%（81 議席中 46 議席）となっている。

群を抜く維新の絶対得票率

一方、選挙における維新の集票力はどのようなものであろうか。次ページ下の表は大阪市議会の前々回から今回までの選挙における

大阪府議会		
党派	選挙前	今回
維新	46	55
公明	15	14
自民	16	7
共産	2	1
立民	1	1
社民	0	0
無所属	3	1
合計	83	79

* 選挙前定員 88（欠員 5）、今回から定員 79



党派別絶対得票率の推移をまとめたものである。

絶対得票率とは候補者が獲得した得票数が、選挙当日の有権者数（無投票となった選挙区の有権者は除く）の何%にあたるのかをみる指標で、絶対得票率が高い候補者

（所属政党）ほど集票が安定し、投票率の高低に影響されにくく、選挙に強いということになる。

大阪市議会選挙における維新の絶対得票率は他の党派と比較して群を抜いて高い。今回の選挙では 24.9% を記録している。有権者の 4 人に 1 人が維新の候補に投票したことになる。

党派	選挙前	今回
維新	40	46
公明	18	18
自民	14	11
共産	4	2
立民	0	0
れいわ	0	0
無所属	4	4
合計	80	81

* 選挙前定員83（欠員3）、今回から定員81

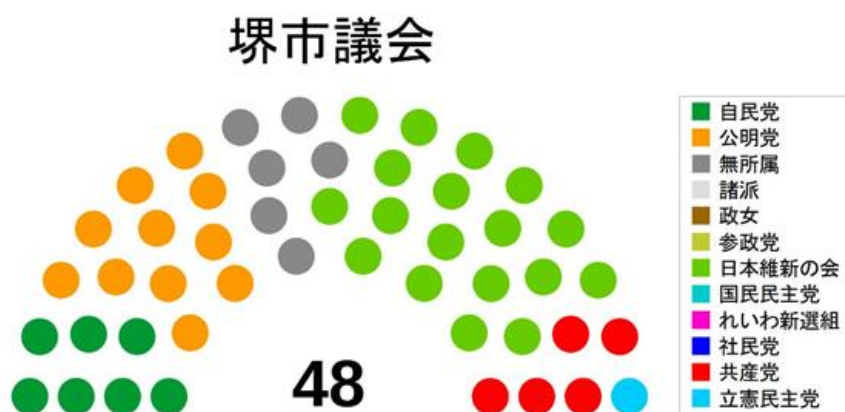
党派	得票数 (2015)	絶対得票率 (2015)	得票数 (2019)	絶対得票率 (2019)	得票数 (2023)	絶対得票率 (2023)
維新	339,636	17.5%	488,915	23.7%	552,377	24.9%
自民	182,702	9.4%	179,986	8.7%	141,495	6.4%
公明	176,724	9.1%	173,045	8.4%	162,860	7.4%
共産	142,978	7.4%	111,462	5.4%	95,444	4.3%
立憲(民主)	39,400	2.0%	38,367	1.9%	3,604	0.2%
れいわ	0	0.0%	0	0.0%	4,830	0.2%
無所属	56,701	2.9%	45,585	2.2%	68,991	3.1%
当日有権者数	1,936,537		2,063,290		2,214,712	

他党派の状況

これに対して、他党派は大きく差をつけられている。公明、自民、共産は選挙のたびに絶対得票率を減らし、それぞれ維新の5分の1から3分の1という状態になっている。

しかし、ここで注目すべきは「無所属」の候補の健闘である。今回の選挙で当選した4名の無所属議員はすべて現職であり、絶対得票率も前回よりもあげている。猛烈な維新の集票力を前にしても、定数の枠から振り落とされないヒントが無所属議員の活動の中にあ

るのではないか。



大阪市議選とは異なる堺市議選の様相

堺市議会の選挙結果は左の図と表のとおりである。維新は前回同様、比較第一党の議席は獲得しているが、議席数は前回と同数の 18 議席。議席占有率は大阪府・大阪市議会より低い 37.5%

（48 議席中 18 議席）にとどまる。維新は堺においても議席増をめざして 22 名が立候補した。しかし、結果は現状維持の 18 名の当選（1 名は無投票当選）にとどまった。

絶対得票率においても限界がみられる。今回選挙における絶対得票率は前回よりも 0.2 ポイント

党派	選挙前	今回
維新	18	18
公明	11	11
自民	9	7
共産	4	5
立民	1	1
無所属	5	6
合計	48	48

少ない 19.0%となっている。

堺市議会で特徴的なのは無所属議員の選挙の強さである。今回の選挙における無所属の絶対得票率は 7.5%に達しており、自民党、共産党よりも高い数字となっている。

党派	得票数 (2015)	絶対得票率 (2015)	得票数 (2019)	絶対得票率 (2019)	得票数 (2023)	絶対得票率 (2023)
維新	98,912	14.7%	131,188	19.2%	122,242	19.0%
自民	56,849	8.5%	59,155	8.6%	39,114	6.1%
公明	60,139	9.0%	59,214	8.7%	59,367	9.2%
共産	40,124	6.0%	34,895	5.1%	28,070	4.4%
立憲(民主)	19,280	2.9%	15,549	2.3%	6,497	1.0%
幸福	566	0.1%	0	0.0%	0	0.0%
無所属	41,581	6.2%	35,109	5.1%	48,269	7.5%
当日有権者数	671,887		684,043		644,638	

堺では今回の選挙の後、市長選（5月21日告示、6月4日投開票予定）が控えている。前回自民党を離党し無所属で立候補した野村友昭元市議が、再度、無所属で立候補することを表明し活動を開始している。野村氏は選挙戦を通じて、前回維新公認で当選した永藤英機現市長の市政のありかたを問うとしている。このような事情も堺の非維新勢力の健闘の背景にあるものと思われる。

吉村大阪府知事の集票力

今回の選挙において維新の選挙の強さとして大阪府、大阪市の議会選挙における議席独占の他に吉村洋文大阪府知事の集票力もメディアの話題となった。確かに2期目をめざす吉村氏の得票数は、歴代の大阪府知事選挙の当選者の記録を塗り替えるものであった。

選挙執行年	当選者	当選回数	得票数	絶対得票率	有権者数
2023	吉村洋文	2	2,439,444	33.9%	7,188,665
2019	吉村洋文	1	2,266,103	31.4%	7,213,730
2015	松井 一郎	2	2,025,387	28.7%	7,050,381
2011	松井 一郎	1	2,006,195	28.5%	7,032,033

しかし、そもそも2期目をめざす知事の集票力はきわめて強いものである。知事のもつ絶大な権限に未知数の期待感が重なるからであるといわれている。今回の統一地方選挙においても2期目をめざす知事はすべて高い絶対得票率を示している。

選挙執行年	当選者	当選回数	得票数	絶対得票率	有権者数
2023	丸山 達也（島根）	2	251,545	46.3%	543,020
2023	杉本 達治（福井）	2	282,097	45.3%	623,141
2023	平井 伸治（鳥取）	5	200,442	44.3%	452,764
2023	鈴木 直道（北海道）	2	1,692,436	38.7%	4,368,708
2023	吉村洋文（大阪）	2	2,439,444	33.9%	7,188,665
2023	佐藤 樹一郎（大分）	1	271,400	29.2%	930,813
2023	黒岩 祐治（神奈川）	4	1,933,753	25.4%	7,615,608
2023	山下 真（奈良）	1	266,404	23.9%	1,112,680
2023	後藤田 正純（徳島）	1	130,993	21.6%	605,914

大阪のような大都市圏と他の地域を同列に比較することはできないかもしれない。しかし、以下のように東京、愛知、神奈川においても、2期目をめざす知事は高い絶対得票率を示す傾向がある。吉村氏は選挙に強い。それは確かである。しかし、とてつもなく並外れて強いわけではない。

選挙執行年	当選者	当選回数	得票数	絶対得票率	有権者数
2020	小池 ゆりこ（東京）	2	3,661,371	32.4%	11,290,229
2015	大村 秀章（愛知）	2	1,629,147	27.7%	5,880,350
2015	黒岩 祐治（神奈川）	2	2,195,764	30.1%	7,304,530

（清輝）